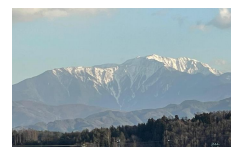


ああ 遠くの空は 晴れている



NO4

南箕輪村教育委員会

第4号では、広報みなみみのわ に令和8年1月号から掲載している
小中学校の授業風景 自分のよさと可能性を発揮する子どもたち
「共に 学び合う」を紹介します。初回は、南部小学校の5年生 社会の
授業風景です。

【発行の趣旨】

子どもたちが、お互いのよさと可能性を発揮して、共に学び合いながら成長
している授業風景を村民の皆様にお伝えしていきます。「授業の充実」を学校づ
くりの根幹と考える学校での、子どもの学びを伝えていきます。

(次回予定) 令和8年 3月号 南箕輪小学校の授業風景です。

小中学校の授業風景
自分のよさと可能性を発揮する子どもたち

共に学び合う

No.1

○ コンビニで扱われる情報による便利さについて

○ 「店側」と「お客さん」の両面から考えていく子どもたち

南部小学校 5年社会科の授業

単元

「情報化した社会と
産業の発展」

子どもたちが社会のしくみを意欲的にとらえて、身の回りの生活を深く見つめるきっかけになった授業の様子を紹介します。

学習問題

↓

学習課題

コンビニエンスストアでは、どのような情報を何のために活用しているのだろう

子どもたちの意見

天気予報の情報、地域のイベントの情報、電子マネー、ATMやコピー機

これらの情報があることで、どんなことが「便利」になっているのだろう

◆個人追究:タブレットを使って情報整理 → ◆全体追究:個人追究で考えたことを発表

◎子どもたちは、右の写真のように、タブレットを使って、2つの情報を分類して入力していきました。

【青い付箋】

コンビニで扱われている情報

【赤い付箋】

その情報によってどんなことが便利になっているのか

◎天気の情報を使って、売れそうな商品の発注を増やしている。「(具体例)寒くなる予報を見て、おでんが売れそうだから、おでんの具の注文を増やしている。」「[店側の視点]

◎ATMがあるから、銀行まで行かなくて済む。「(根拠)コンビニはどこにでもあるからコンビニの方が銀行よりお金を引き出すのに便利だ。」「[客側の視点]

◎バーコードによる商品の発注の管理は便利だと思う。「(理由)レジでバーコードを読み取るだけで店側は不足分を自動で注文できるし、お客さんにとっては商品が売り切れになってしまうことが減るから便利だよ。」「[店側・客側双方の視点]

◆このように子どもたちの視点が広がりました。

社会科では、子どもたちにとって身近なことを題材にすることで、子どもたちが意欲的に社会のしくみについて考え、自分たちの身の回りの生活をさらに興味をもって見つめるきっかけとなります。

【このコーナーは、奇数月に、村の小中学校が順番で執筆していきます。】

広報 MINAMIMINOWA 2026.01

14